

2 事業紹介

2-1 事業一覧

2-1-1 地域課題の解決と地域共生等に関する教育および研究

1. 地域教育プログラム

(1) 地域共生論

1年次の全学部学生約600人が学部の枠を超えてグループワークを通じ、一緒に学ぶ必修講義。各学部から提供されるテーマをもとに、地域共生の意義を理解し、自ら率先して地域における活動等を実践することの大切さを学ぶとともに、学生がSDGsの視点も交えて考え、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力向上を目指す。

(2) 近江楽士（地域学）副専攻

全学・全学科対象の未来志向の学びのプログラム。実社会に必要なノウハウを地域から学び、主体的に考え、行動し、課題を解決するための学びを提供する。

コミュニティ・ネットワーク（CN）コースは、地域を客観的に分析し、人材や資源を結び合わせて地域再生に向けた取組をデザインするネットワーク力を身に付ける。ソーシャル・アントレプレナー

（SE）コースは、起業家的精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する起業力を身に付ける。

この副専攻を修了し所属学部の卒業要件を満たすことで「近江楽士（コミュニティ・ネットワーク）」、「近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）」の称号が付与される。

(3) 近江環人地域再生学座

本学の大学院生や社会人を対象に、地域再生のリーダーとなる資質を有した人材「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」を育成するもので、研究科横断による枠組みで地域再生や地域活性化のため

の必要な知識と技能を総合的・体系的に習得できる副専攻カリキュラム。

なお、学座修了生を中心に結成された特定非営利活動法人コミュニティアーキテクトネットワーク（NPO法人環人ネット）が、地域での活動連携や大学とのつなぎ役などで大きな役割を果たしていただいている。

(4) 近江楽座

地域貢献を目的とする学生主体の地域活動を全学的に支援（活動助成・コンサルティング・情報発信と共有）する教育プログラム。平成16年度に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」事業として実施し、平成19年度からは本学の独自予算で継続している。事業の目標としては、①地域の課題に学生・大学が取り組み、地域の活性化に向けて共に行動する、②学生が地域の方々と一緒に行動することにより、学内だけでは学べないことを体験する、③大学と地域が共同してよりよい地域づくり・人づくりにつながる仕組みをつくる、の3つがある。毎年20を超えるプロジェクトがまちづくり、健康福祉医療、環境保全、農業振興、被災地支援など様々な分野で、県内外、海外までもフィールドにして活動を続けている。



未来看護塾：宮城県南三陸町田の浦での活動

2. SDGs 達成に向けての取組

世界共通の目標である SDGs に関しては「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」大学として、SDGs の地域化拠点を目指して平成 30 年に滋賀県立大学 SDGs 宣言をした。

主な取組は、前記 1 に記載の様々な地域教育プログラム、SDGs 特化型地域課題研究、キャンパス SDGs びわ湖大会、県大 SDGs シネマ、出前講座のほか、地域の人材育成のための研修事業などにも取り組んでいる。

3. 地域づくり等調査研究

本学の知的資源を生かし、自治体、NPO、経済団体等と連携し受託研究を実施している。

2-1-2 地域における人材育成等

1. 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)

文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を引き継ぎ、地域活性化に向けて地域で活躍する人材の育成と地域の雇用拡大、若者の地元定着を図るため、平成 27 年度から「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」に取り組んできた。これは本学と県内 5 大学、関係団体の連携のもと、①地域共生論の共通科目化、②近江楽座の参加 5 大学への展開、③中期インターンシップの実施、④FD 研修の合同実施、⑤大学によるアイデアコンテストの開催などのほか、本学独自の取組として、前記 2-1-1 の 1 に記載の近江楽士(地域学)副専攻にソーシャル・アントレプレナーコースを設置するとともに、ジョブ交座などを実施した。

2. その他の人材育成事業

前記 2-1-1 の 1「地域教育プログラム」における学生や社会人教育の取組、前記 2-1-1 の 2「SDGs 達成に向けての取組」に記載のとおり、地域において SDGs の視点も持って活躍する人材育成のための研修事業などを実施している。

2-1-3 地域との連携および交流

1. 地域連携相談窓口の設置

平成 30 年度より地域共生センターに地域連携相談窓口を設けて、県や各市町、関係団体等からの大学との連携相談に一元的に対応し学内各学部との調整等に当たっている。

2. 市町等との包括連携協定

「地域貢献」を取組の大きな柱とする本学として、県内各市町と地域の課題や特性等を踏まえた具体的な連携・協力関係や体制を明確にし、組織的な連携を推進するため包括連携協定の締結を進め、随時意見交換を行っている。また、関係団体とも連携協定を結び、取組を推進している。

2-1-4 生涯学習

人生 100 年時代と言われ、地域住民の生涯学習への多様なニーズに対応することも本学の使命である。①春期公開講座、②社会人専門講座、③公開講演、④公開講義など、地域に貢献する本学として、社会情勢の動きや受講生の声を踏まえながら関係教員の協力を得て本学の有する知的資源をもとにこれら生涯学習支援の取組の充実を図っている。

2-1-5 他大学等の連携

1. 環びわ湖大学・地域コンソーシアム

県内 13 大学と県、市町、関係団体で構成される環びわ湖大学・地域コンソーシアムの大学地域連携事業に、本学学生の参加を呼び掛けながら取組を進めている(令和 2 年度からは、びわこリハビリテーション専門職大学を加え 14 大学等で構成されている)。

2. 大学サテライト・プラザ彦根

彦根市内の 3 大学、株式会社平和堂、彦根商工会議所、彦根市が協働で運営し、単位互換講義の実施、講演会などを実施している。

3. びわ湖東北部地域連携協議会

びわ湖東北部地域の 5 大学、県、3 市(令和 2 年度より米原市参加)、2 商工会議所、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの連携によって、SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に向けた各種の事業に取り組んでいる(令和元年度は、彦根・長浜地域連携協議会として活動を実施)。